

市民活動ステップアップ
& スモールビジネス
立ち上げのための

2018年9月11日
NPO 法人 地域の未来・志援センター

2018年度助成金セミナー

資金調達よくばりセミナー in 岐阜・西濃 開催速報

【午前】初めての申請書書き方講座

【午後】資金調達体験談&制度紹介



- 開催日……2018年9月9日(日)
 - 時間……10:00~16:00 ※16:00~16:30 個別相談会
 - 会場……土川商店 場所かさじゅう(岐阜県揖斐郡池田町宮地 930)
 - 主催……NPO 法人 地域の未来・志援センター
一般財団法人 セブンイレブン記念財団
 - 協力……NPO 法人ぎふ NPO センター、NPO 法人校舎のない学校
池田町まちづくり工房霞溪舎、西濃環境 NPO ネットワーク
いび NPO 法人連絡協議会、NPO 法人泉京・垂井
 - 後援……岐阜県、安八町、池田町、揖斐川町、大野町、神戸町、関ヶ原町
垂井町、養老町、輪之内町、大垣市、海津市
 - 参加者数……43名(目標数 45名)
 - うち ◆一日参加: 30名
 - ◆午前のみ参加: 5名
 - ◆午後のみ参加: 8名
- ※その他 6名(制度説明者、理事、スタッフ)

< 当日プログラム >

時間	内容	登壇者
10:00	セミナー開会 主催団体 挨拶・趣旨説明	地域の未来・志援センター 理事長 竹内由美子
10:05-	午前の部 初めての申請書書き方講座	<<講師>> 地域の未来・志援センター 理事 セブン-イレブン記念財団 地域活動支援マネージャー 小野弘人さん
-11:05	◆資金調達総論(講義)	
11:15-	◆「語ってみよう!」<グループワーク>	
11:45 -12:30	◆「書いてみよう!」<個人ワーク>	
12:30-13:30	昼食タイム ☆土川商店の石釜ピザと焼きそばを楽しみながら、参加者同士懇談☆	
13:30-	午後の部 資金調達対談+制度紹介 協力団体挨拶 主催団体 挨拶	まちづくり工房『霞溪舎』運営委員会 代表 小川康伸さん まちづくり工房『霞溪舎』運営委員会 馬淵規嘉さん セブン-イレブン記念財団 地域活動支援マネージャー 小野弘人さん
-13:40		
13:40-	◆対談 「知っておきたいこんなこと& サポートは積極的な問合せから」	<<登壇者>> ◎申請経験者:高橋秀歩さん、高橋弘子さん (池田町補助金採択者) 河合良太さん (泉京・垂井 事務局長) ◎助成団体 :小野弘人さん (セブン-イレブン記念財団) ◎自治体まちづくり補助金担当者: 小倉優里さん(池田町企画課)
-14:35		
14:40	◆助成制度紹介	
	1.《全国規模の助成制度》 「2019年度環境市民活動助成」	セブン-イレブン記念財団 小野弘人さん
	2.《地域の補助金制度》 「池田町町民くらしづくり活動団体 支援金他」	池田町企画課 小倉優里さん、和田千怜さん
-15:30	3.《小規模事業・コミュニティビジネス への融資》	日本政策金融公庫 岐阜支店 国民生活事業 融資第二課長 上杉洋二さん
15:35-15:45	アンケート記入・告知タイム	

15:45-15:50	閉会挨拶 セミナー閉会	池田町企画課 小倉優里さん 地域の未来・志援センター 理事長 竹内由美子
16:00-16:30	個別相談会	相談受付団体(資金調達制度): * 日本政策金融公庫 * 一般財団法人セブン・イレブン記念財団 * 池田町総務部企画課 * 地域の未来・志援センター 運営相談

懇親会 17:00~19:00 ※希望者のみ参加

会場：まちづくり工房 霞溪舎<<養老鉄道池野駅併設>> (岐阜県揖斐郡池田町池野259番地の1)



【開会あいさつ】
まちづくり工房運営委員会 代表
小川康伸さん

➤ 主催団体挨拶・趣旨説明

当法人理事長竹内由美子より、開会の挨拶として、まずは、岐阜県西濃地域・池田町で助成金セミナー（「資金調達よくばりセミナー」）を開催することになったいきさつを紹介。



【開会挨拶・趣旨説明】
地域の未来・志援センター 竹内理事長

地域クラスター構想に基づき、一昨年、西濃環境NPOネットワークと共催で情報交流会を実施。その後、西濃の環境団体と連携を深めてきました。そうした流れの中、池田町まちづくり工房運営委員会との出会い、ぎふNPOセンターの後押しを得て、本セミナーを開催する運びとなったこと等をお話しました。最後に、本セミナーを活動のステップアップ、人脈づくりのきっかけとして活かしていただきたいと締めくくりました。

午前の部 初めての申請書書き方講座

◆ 資金調達総論（講義）

≪講師≫

地域の未来・志援センター 理事
セブン-イレブン記念財団
地域活動支援マネージャー 小野弘人さん

◆ 午前プログラム1「資金調達総論」

午前の部の最初のプログラムは約40分間の講義。非営利活動の資金調達にあたって初心者が知っておきたい寄付金集めの心構え、助成金や各種補助金の基礎知識、そして申請する上での注意点などを豊富なデータや実例をもとに話されました。また、講師の長年にわたるNPOサポートの実績から、リアルな成功事例、失敗事例を聴くことができ、参加者は熱心に耳を傾けていました。



【参加者の声(アンケートより)】

- ◎6W3Hの重要性！
- ◎助成金は恋愛と同じ！というお話はインパクトがあった
- ◎『共感を得る→情報(データ)をオープンに開示→参加者の感想を集める→信頼関係を築く→(循環)』

というお話が印象に残った。

◎お金も名声も人から与えてもらったもの→感謝の心を持つことの大切さ

◎『マニフェストが重要』。定期的に方針のプレをなくすためにも、見直すことが大事だと思った

など



盛りだくさんの講師の話をもらすまいと、多くの参加者がスクリーンの資料を撮影



意欲溢れる人ばかり。積極的に講師の質問に答える方、自ら手を上げる方が多く、会場は活気にあふれていました

◆午前プログラム2 「語ってみよう」(グループワーク)

続いて4グループに分かれ、自分が申請したい事業内容について、第三者にわかりやすく説明する練習を行いました。このワークの狙いは、頭の中にあるプランをブラッシュアップすること。第三者に語ることで、プランのどこが弱いのか? どこを補えば、アピール力が増すのかを考えるきっかけとなり、頭の中を整理することができます。そして、ワークの狙い以外に思わぬ相乗効果! 近隣地域で活動していてもお互い知らなかった参加者同士の出会いの場となり、昼食タイムに親交を温めるアイスブレイクともなりました。



◆午前プログラム3 「書いてみよう」(個人ワーク)

午前中最後のプログラムは、実際に申請書を書く練習ワーク「書いてみよう」。事業プランをたてることに不慣れな参加者が多いため、申請必要事項をコンパクトにまとめた下記のオリジナルワークシートを使用しました。所要時間は20分、戸惑って書く手をとめてしまう方はなく、とにかくやってみよう！とチャレンジ精神溢れる参加者の姿が印象的でした。



説得力のある申請書作成のためのワークシート

〇プロジェクト名 事業内容を1つの文章で表すと？

記入者名 _____

記入年月日 _____

1. 事業の目的 なぜこの事業を行うのですか？

行わないとこんな悪いことが！

2. 事業内容 事業の内容を順に従って示してみよう

① 上記の目的を達成するためにはどんな課題がありますか？

② 上記の課題を生んでいる原因はなんですか？

③ 上記の課題とその原因を取り除くために何をしますか？(＝課題の解決策＝事業内容)

3. スケジュール どのようなスケジュールで実施しますか？
(月単位で予定を記載)

月	予定

4. 経費 実施する上でどんな経費がいくら発生しますか？

費目	金額
計	

※経費は全て助成金として認められる場合もあればそうでないこともあり、助成団体によって千差万別です。
申請したい助成団体の応募要項をよく読み、自団体に必要な経費を助成してくれるのかどうかを知っておくことが重要です。

5. 事業の効果、成果目標(数値目標) 行うとこんな良いことが！

①【効果】何が、どんなふうによくなりますか？

②【目標】何が、どれだけ(なるべく具体的な数値目標があるとうい)よくなりますか？

6. 事業の対象者 この事業を必要としているのは誰ですか？

①この事業を必要としているのはどんな人ですか？

②どこにいる人にどのように呼びかけますか？(告知方法)

ワークシート記入後は、3～4人のグループを作って発表タイム。其々のグループの中で最もアピール力のある事業案を選んでもらいました。このワークの狙いは、審査員の視点を持つこと。助成する側の立場を経験することで、客観的な目で事業の実現可能性、魅力を考える体験をしていただきました。

ワークシートに書いた内容を3~4人のグループに分かれて発表し合いました。どの参加者も講師からのアドバイスをもちに、6W3Hを意識してわかりやすく説明しようと一生懸命！



【参加者の声(アンケートより)】

- ◎「思いが伝わる」は傲慢な考え方。やはり広く伝えるためにもネットなどを活用し、思いを正しく文章化することが、助成を受けることにつながると思った。
- ◎ぼんやり考えていたことを発表というカタチで言葉にできて良かった。
- ◎実際にはあの時間では書けないが、挑戦するのは良かった。
- ◎もっと時間が欲しかった。
- ◎もう少しアドバイスがほしいと思いました。
- ◎内容や費用を具体的に示せるようにすることが必要と分かりました。



午後の部 資金調達対談 & 制度説明

午後の部開始にあたり、今回セミナーの協力団体である岐阜県池田町まちづくり工房実行運営委員会からご挨拶いただきました。

次に主催者挨拶として、セブン-イレブン記念財団 小野さんより、改めて今回のセミナーの狙いをお話し、早速午後の部をスタートしました。



池田町まちづくり工房運営委員会・馬淵さんと小川さんよりご挨拶をいただきました。大変お世話になりました！

◆ 午後プログラム1「資金調達対談」

～知っておきたいこんなこと & サポートは積極的な問合せから～



- 〈登壇者〉 ◎申請経験者： 高橋秀歩さん、高橋弘子さん（池田町助成金採択者）
河合良太さん（NPO 法人泉京・垂井 事務局長）
◎助成団体： 小野弘人さん（セブン-イレブン記念財団）
◎自治体まちづくり助成金担当者： 小倉優里さん（池田町総務部企画課）

午後の最初のプログラムは、助成金申請にまつわるあれこれを語り合う対談「知っておきたいこんなこと & サポートは積極的な問合せから」。当団体スタッフ河合さんが、コーディネーターと申請経験者という2役を務め、登壇者の様々な体験や苦労話を引き出していきました。

《PDCAサイクルを理解し、大きな成長を遂げた高橋秀歩さんの姿を紹介》

今回の対談の目玉は、弱冠中学1年生で町の「地方創生プロジェクト推進助成金事業」に採択され、廃線の危機にある養老鉄道存続活動を行っている高橋秀歩さんの体験談です。秀歩さんの熱意や行動力を支える代表者として、母親の弘子さんと町の地方創生・市民活動支援担当の小倉さんに、この1年余りの歩みを語っていただきました。中でも、皆の心をとらえたのは秀歩さんの成長ぶり。小倉さんにご両親が伝えたPDCA（計画→実行→見直し→改善してさらに実行）の重要性を確実に理解し、活動を進展させていることに感動が広がりました。

《助成申請できる経費、できない経費等を一つひとつ具体的に問い合わせ》

次に、助成申請作業を担った弘子さんのお話。秀歩さんの想いをカタチにする上で難しかったこと、苦労したことをお話いただきました。申請書作成について、はじめはどのように予算を立てたらよいかかわからず、担当課の小倉さんに逐一問い合わせをしたとのこと。小倉さんから、助成金対象の経費はどのようなものを一つひとつ具体的に説明してもらい、難関を突破していったことが語られました。

《高橋さんと小倉さんのやりとりをひも解き解説》

それらの話を受け、セブン・イレブン記念財団・小野さんより、助成団体へのアプローチ方法についてアドバイス。また、小倉さんと弘子さんのやりとりをひも解き、事業プラン作成や申請書を書く上でのポイント

- * 助成する側の担当者にとって、上司や審査員等へ説明しやすい資料を作成すること
- * 事業立案の際、自分の頭で考えるだけでなく、参考事例の実状を現地で視察・ヒアリングすること
- * 関連する地域の組織との連携
- * データ収集方法のヒント

などをわかりやすく解説しました。



地方創生の助成業務担当者として、高橋さん親子をサポートする小倉さん(右)



秀歩さんの活動を支えるべく助成申請業務を担うため、熱心に学ばれている弘子さん



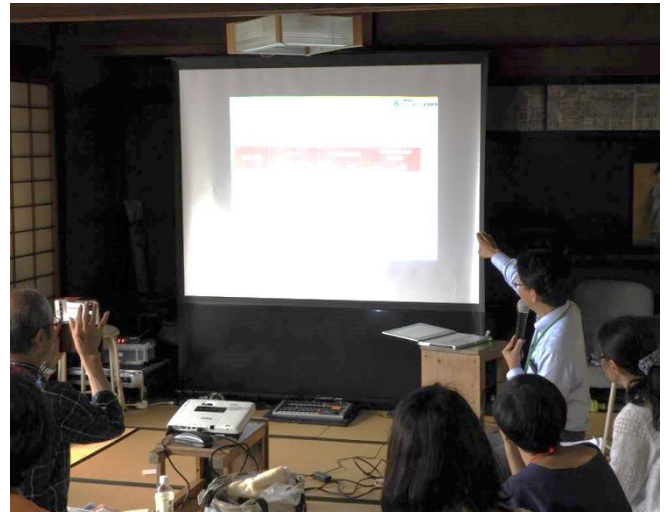
養老鉄道により多くの人に乘ってもらったため、様々な企画にチャレンジしていること、その体験やトライ&エラーから学んだことなどを理路整然と語る秀歩さん。その姿に多くの人が触発を受け、そして勇気をもらいました

◆午後プログラム2『助成制度説明』

1. 「2019年度環境市民活動助成」助成金制度説明

対談に続き、セブン-イレブン記念財団の小野さんより助成制度紹介が行われました。

店舗レジ横にある募金箱の募金が財源であること、近年の助成状況の説明、そしてパンフレットを使って制度の説明がなされました。今年度、従来の4種類の助成メニューに加え設けられた「山の森・海の森づくり助成（設立25周年記念）」についても丁寧に紹介されました。



公募助成制度の説明を行う
セブン-イレブン記念財団 小野弘人さん

2. 池田町助成金制度説明

2組めの登壇は池田町の企画課です。「池田町町民くらしづくり活動団体支援金」「池田町地方創生プロジェクト推進助成金」について説明があり、具体的な助成金額やどのような経費が充当するのか？ また、除外される経費はどんなものか等についてわかりやすく紹介されました。また、評価のポイントも端的に話され、他の地域からの参加者にも大いに参考になりました。

担当者からは、大切な財源である税金を地域のために有効に使うという視点を忘れないでほしい、と熱いメッセージが送られました。



池田町の助成制度説明を行う
企画課 和田千怜さん(左)と小倉優里さん(右)

3. 日本政策金融公庫「小口の事業資金融資」「創業支援、地域活性化支援」説明

最後は、日本政策金融公庫 岐阜支店の上杉さんより少額融資についてご説明いただきました。まずは、日本政策金融公庫の概要について紹介。これまで市民活動にとって馴染みがないように感じられた公庫の業務が、地域活性化という視点で相通じるものがあること、それ故、公庫としても今回の参加者の事業に大いに興味ある旨が語られました。そして、地域を良くしたいという想いで立ち上げた小規模事業の事例紹介があり、融資部門10年以上のキャリアを持つ上杉さんから、事業に成功する人、しない人の傾向について示唆に富む有益なアドバイスをいただきました。



少額融資について説明を行う
国民生活事業 融資第二課長 上杉洋二さん

➤ 閉会

午前10時から6時間にわたる長丁場のセミナー。参加者の皆さんにお疲れの様子はなく、最後まで会場には熱気があふれていました。閉会にあたり、地元の方々への声掛け、広報誌等への掲載という広報支援から当日の運営までご協力いただいた池田町企画課の小倉さんより一言ご挨拶をいただきました。

最後に当団体代表よりご挨拶。岐阜・西濃地域の今後の可能性に期待し、当団体もともに歩ませていただきたい旨をお伝えしました。



【協力挨拶】
池田町企画課 小倉優里さん



【閉会挨拶】
地域の未来・志援センター 竹内理事長



➤ 自由参加『個別相談会』 + 名刺交換会

閉会としたのちに行った『個別相談会』。制度説明の登壇者を囲み、また、当団体理事・スタッフへの運営相談が相次ぎました。

特筆すべきは、午前中講義の効果！ 小野さんによる人脈づくりの第一歩の話、「名刺交換のススメ」は多くの参加者の心をとらえた模様。即実践ということで、セミナーが終了してもほとんどの方が会場に残り、名刺交換をしながら親交を深めていました。

参加者同士の話があまりに盛り上がり、アンケート回収率は若干低下気味（50%程度）となりましたが、提出されたアンケートには、下記のように本セミナーで貴重な出会いがあったことがつづられていました。



個別相談会は名刺交換会さながらに！
閉会してもすぐに帰る人はほとんどなく
参加者同士、懇談の輪が広がりました

【参加者の声(アンケートより)】

- ◎相談はたくさんできるとわかった！
- ◎助成金担当者、融資担当者さんと話せてよかったです！
- ◎各地で定期開催してほしい。
- ◎他地域からの参加でしたが、来てよかった。熱量を感じた（兵庫県からの参加者）
- ◎人と人の距離が縮まりました。とても良い機会をいただきありがとうございました